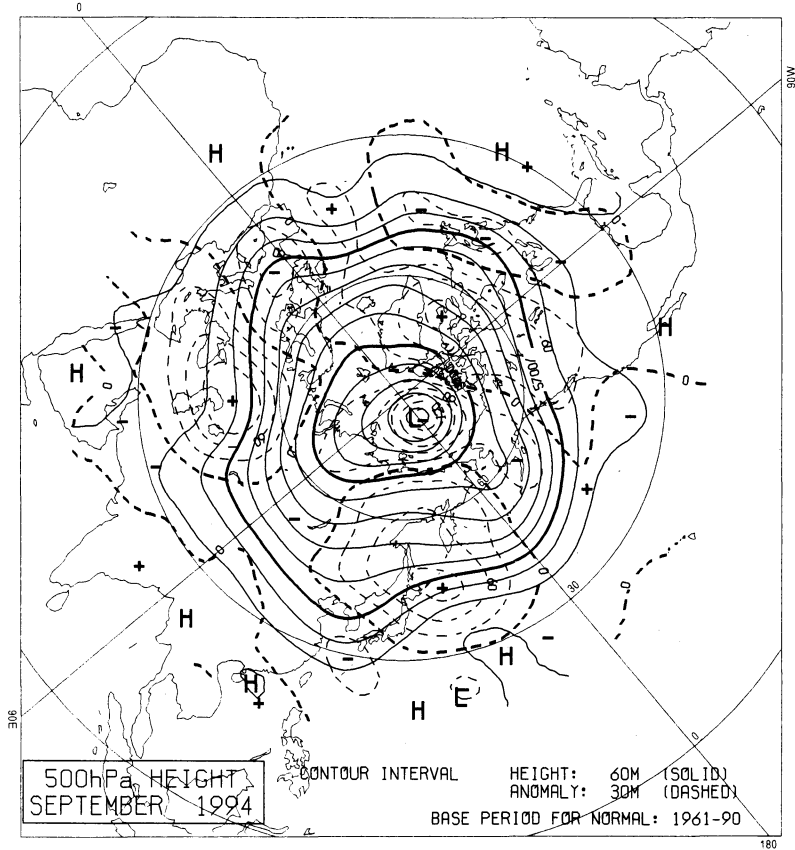


1994年9月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差, 単位m)

表 1 1994年9月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	—	—	—	—	—	—	カサブランカ	—	—	—	—	—	—
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	28.3	-0.5	-0.5	70	76	1
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	19.3	0.9	1.0	6	28	2
イスタンブール	23.7	4.0	4.4	0	0	0	バンクーバー	15.7	1.4	1.3	66	102	3
モスクワ	13.7	2.8	1.9	47	74	0	ニューオリンズ	25.4	-0.2	-0.2	143	102	3
オデッサ	20.6	3.8	3.2	0	0	1	セントルイス	21.2	0.3	0.2	30	38	1
ニューデリー	29.3	0.1	0.1	2	2	1	サンフランシスコ	17.8	0.0	0.0	3	39	4
カルカッタ	29.6	0.6	1.2	175	59	1	ニューヨーク	20.4	0.3	0.3	70	81	3
ボンベイ	26.9	-0.8	-1.6	353	131	4	マナウス	27.6	0.0	0.0	63	83	3
ホンコン	26.7	-0.9	-1.8	307	102	3	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	15.8	0.7	0.9	89	170	5	ロサリオ	—	—	—	—	—	—
ペキン	21.1	1.5	1.7	15	31	1	ホノルル	28.9	1.7	2.8	6	30	2
シャンハイ	24.1	—	—	12	—	1	タヒチ	25.5	0.7	1.4	84	183	5
バンコク	28.6	0.2	0.4	375	109	—	ダーウィン	27.1	-0.8	-1.3	0	0	1
マニラ	27.7	0.0	0.0	—	—	—	キャンベラ	10.1	0.6	0.6	3	5	0

9月の世界の天候

9月の北半球500 hPa 高度天気図は、極付近に強い負偏差域があり、それを取り囲むようにオホーツク海、ヨーロッパロシア、北米大陸北東部に強い正偏差域が広がった。中緯度帯の偏差パターンは顕著な波数3の形が卓越した。特に、ヨーロッパロシアを中心とした正偏差域は、9月の第1半旬から第5半旬まで持続し、この付近での顕著な高温をもたらした。一方、その東側の中央シベリア付近と西側のヨーロッパ西部では負偏差域が持続し、これらの付近では低温になった。極渦の強い状態は7月から続いている。

①韓国と日本の高温

東シベリアから日本にかけては高温傾向で、月平均気温が平年より2°C以上高いところがあった。

②モンゴルから日本にかけての多雨

モンゴルから日本にかけては多雨となり、ロシアの沿海州では中旬以降の豪雨で過去70年で最大規模の災害が発生したと伝えられた。ウラジオストクの月降水量は352 mm (平年の2.8倍)。

③中国西部からパキスタンにかけての低温

中央シベリアからパキスタンにかけての広い範囲で低温傾向となった。また、パキスタンでは降水量が平年より多く、ハイデラバードの月降水量は126 mm (平年の12倍) で、南部では低温による影響もあって綿花

の生産が大幅に減量した。中国西部でも月平均気温が平年より2°C以上低かった。

④ロシア西部からアフリカ北部にかけての高温

黒海付近を中心にロシア西部からアフリカ北部にかけての広い範囲で高温傾向となった。ウクライナのハリコフの月平均気温は19.0°C (平年偏差+5.0°C)。一方、ヨーロッパ西部では中旬に強い寒気が南下し、気温が平年を下回った。フランス中部では1923年以降の低温と伝えられた。

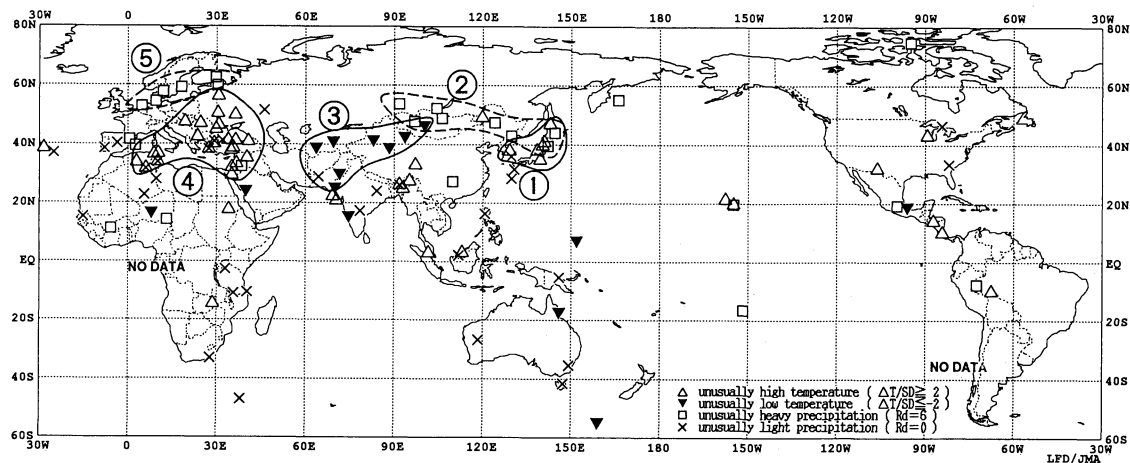
⑤ヨーロッパの多雨

ヨーロッパの中部からスカンジナビア半島南部にかけては降水量が平年を上回り、特にオランダからフィンランド南部にかけては月降水量が平年の2~3倍に達したところがあった。

⑥その他

オーストラリアでは降水量が平年を下回り、これによる小麦や羊毛の減産が伝えられた。少雨傾向は1991年の後半から続いている。首都キャンベラの月降水量は3 mm (平年の5%)。アフリカのサヘル地方は低温多雨傾向で、ナイジェリアでは湖の堤防が決壊し100人が死亡、ニジェール南部でも洪水の発生が伝えられた。

(気象庁予報部長期予報課 千葉剛輝)



1994年9月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1994年9月の気候表の説明。平均値は、1961~1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。

ENSO の現況 (1994年 9月)

エルニーニョ現象の推移の目安となる太平洋東部赤道域のエルニーニョ監視海域 (4°N~4°S, 150°W~90°W) の月平均海面水温の平年偏差と南方振動指数 (SOI: タヒチとダーウィンの海面気圧の平年偏差の差を規格化したものであり、この値が負のときは平年より貿易風が弱いことを示す) を、第1図に示す。1993年春から夏にかけてエルニーニョ現象が発生しており、海面水温平年偏差の5か月移動平均値は0.5°Cを越えていたが、1993年秋以降は、平年並で推移している。1994年9月の月平均海面水温偏差は0.0°Cであった。

一方、南方振動指数も、1993年の春から夏の大きな負の値から、秋以降は小さい値を示していた。ところが、1994年3月から大きな負の値を示すようになり、9月まで連続して7か月間大きな負の値となっている。

9月にはいって、太平洋上の対流活動は平年より東の日付変更線付近で活発となり、赤道付近の風は太平

洋のほとんどの領域で西風偏差となった。

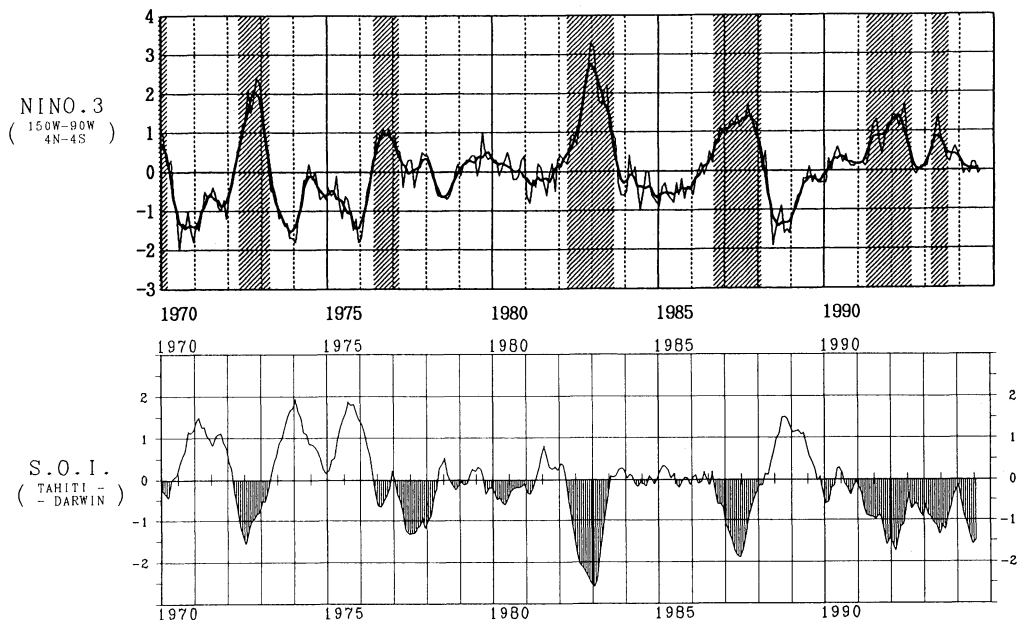
1994年9月の月平均海面水温偏差の分布 (第2図) では、太平洋中部赤道域で正偏差となっており、特に、日付変更線付近で平年より1°C以上高くなっている。同月の太平洋赤道に沿う海面から深さ400mまでの表層水温の断面を第3図に示すが、日付変更線付近の海面の高水温域に対応して28°C以上の暖水の厚さが100m以上に達している。

(気象庁海洋気象部海洋課

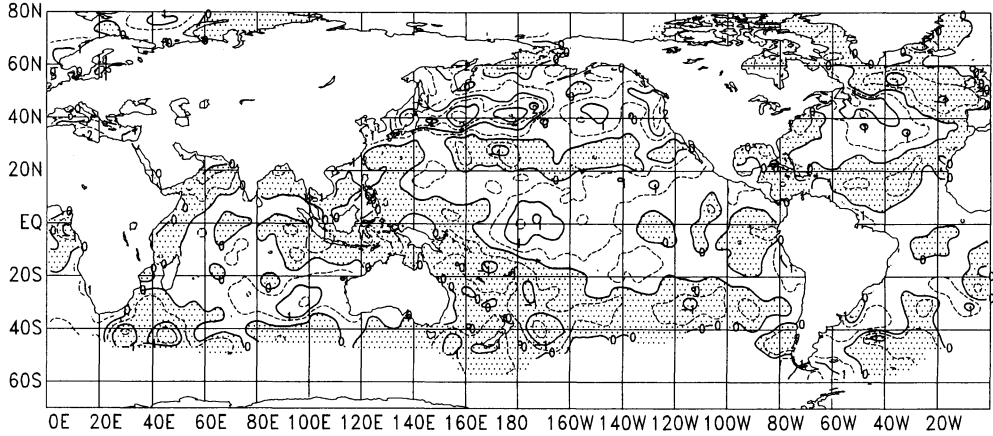
エルニーニョ監視センター 石川孝一
気象庁予報部長期予報課 林 久美)

気象庁では、「エルニーニョ監視速報」、「気象庁海洋月報」により、エルニーニョ現象の状況を毎月発表しています。詳しくは、気象庁海洋気象部海洋課エルニーニョ監視センターにお問合わせ下さい。

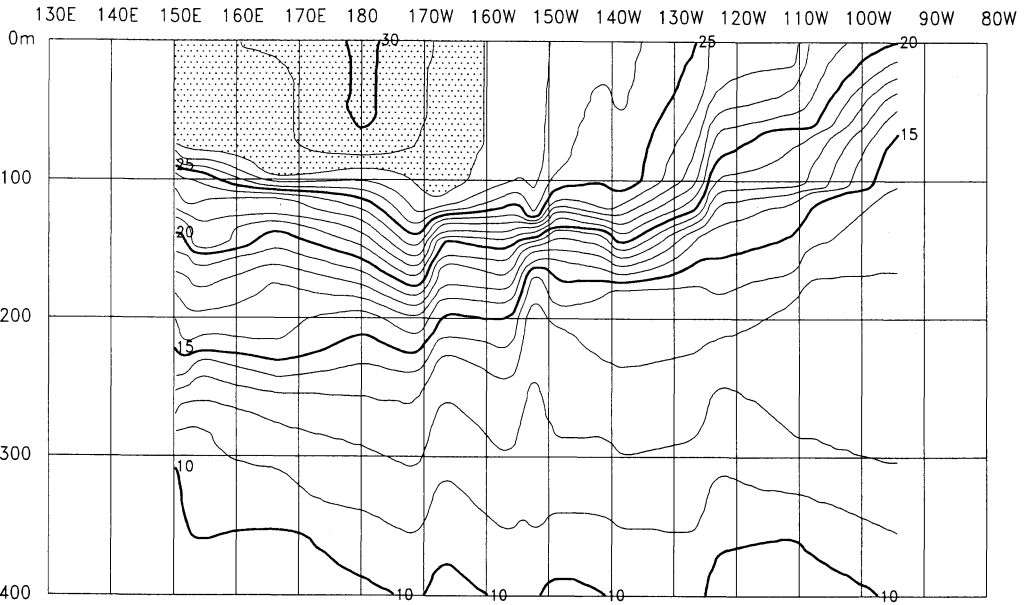
(電話: 03-3212-8341内線5134)



第1図 (上)エルニーニョ監視海域 (4°N~4°S, 150°W~90°W) の月平均海面水温平年偏差の推移 (単位: °C)。折線は月平均値、滑らかな太線は5か月移動平均値を示し、正の値は平年より高いことを示す (平年値は1961~1990年の30年平均)。過去のエルニーニョ現象の発生期間に陰影を施してある。
(下)南方振動指数 (SOI: タヒチとダーウィンの海面気圧の平年偏差の差を規格化したもの。この値が負のときは平年より貿易風の弱いことを示す。) の推移。



第2図 全球月平均海面水温偏差図 (1994年9月)
 実線は1°C毎, 破線は0.5°C毎の等値線を示す. 陰影部は平年より低いことを示す(平年値は1961~1990年の30年平均).



第3図 太平洋赤道に沿う表層水温断面図 (1994年9月)
 等値線は1°C毎, 陰影部は28°C以上を示す.